

もしも… 大辻清司の写真と言葉

If... Photos and Words by Kiyoji Otsuji

開期：2024年6月8日(土) - 6月30日(日)

閉期：2024年7月5日(金) - 7月28日(日)

九州産業大学美術館

開館時間=10:00-17:00(入館は16:30まで) *休館日は19:00まで閉館

休館日=月曜日

入場料=一般200円/大学生・専門学校生100円

*高校生は半額、65歳以上・小学生は無料

主催：九州産業大学(九州産業大学美術館、九州産業大学アート&デザイン研究センター(CADS))

特別協力：武蔵野美術大学 美術館・図書館

後援：福岡県、福岡県教育委員会、福岡市、福岡市教育委員会、(協賛)福岡市文化芸術振興財団、朝日新聞社、

西日本新聞社、毎日新聞社、読売新聞社

〒818-8505 福岡県福岡市東区船場台1-3-1
TEL 092-673-5160 FAX 092-673-6267 E-mail kadmuseum@ipc.kyusyu-u.ac.jp
https://www.kyusyu-u.ac.jp/kadmuseum/
SNS | Facebook / Instagram / X | #kso_museum



夕暮れときの陽に彩られた草原をよぎる、
来るべき世界への予兆に眼差しを凝らす大辻中期の傑作(もしも…)。
この1枚を今回の展示の核にすえ、
大辻清司の探究した世界をたっふりとご紹介します。ご期待下さい！

第1章「太陽の知らなかった時」：作家活動の原点にあたる1950年前後、大辻はどんなモチーフ、方法を採り、制作をスタートしたか？
第2章「月に憑かれたピエロ」：1953年に大辻が参加したインターメディアの芸術集団「実験工房」(武満徹、北代省三、山口勝弘、福島秀子、駒井哲郎ほか)の軌跡、コラボレーションの数々を資料と写真から蘇らせる。
第3章「アトリエ訪問」：同時代芸術の現場にレンズを向けたドキュメント。本館所蔵の美術作品(島海青児、豊福知徳、棟方志功、駒井哲郎、林武)と交えながら、アトリエという場を見つめる大辻のカメラアイを検証。
第4章「無言歌/舞踏(禁色)」：変貌する都市環境と人間の関わりを探究する、1950年代後半~70年代年代初めの多彩な実践をたどる。キーワードは“シークエンス”(連続写真)。
第5章「もしも…」：カラー写真の傑作(終章)〈もしも…〉、映画〈上原2丁目〉。眼の前の光景に揺曳しだす、予兆・余韻・ケハイをとらえた中期大辻の傑作群。
第6章「間もなく壊される家」：撮ることと書くことを行き来しながら思考を続けた大辻の代表作「大辻清司実験室」(1975)から、そのエッセンスを。
第7章「工房から」：1980年代以降の後期の作品と言葉を紹介。21世紀の私たちに大辻が残したメッセージとは？

写真家大辻清司(1925-2011)は、
戦後日本の前衛芸術グループ「実験工房」のメンバーであり、
変貌する時代の俳走者として様々な芸術家たちの創造の現場や
都市環境にレンズを向け、また独自の視点から数々のすぐれた写真論を執筆し、
奈良デザイン研究所、筑波大学、九州産業大学ほかで
多くの後進を育てた芸術教育の実践者でもありました。

本展では、2008年より大辻に関する原資料の
総合的なアーカイブ化をすすめてきた
武蔵野美術大学美術館・図書館「大辻清司フォトアーカイブ」の協力のもと、
貴重な作品及び資料をつうじ大辻の写真と言葉をたどり、
その現代的意義を浮き彫りにしていきます。